

かわ版

米穀機構 情報部

No. **19**
2011年8月発行

(社)米穀安定供給確保支援機構(米穀機構)情報部
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町15-15
TEL.03-4334-2161 FAX.03-4334-2167

米穀機構情報部では、お米に関する様々な情報をホームページ「米ネット」及び紙媒体により提供しています。
今回は、「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針(平成23年7月公表)」及び参考資料を基に、米穀の需給見通し、米の1世帯当たりの米の購入数量、民間流通における6月末在庫、国の備蓄米の運営、米の相対取引価格の推移について情報提供いたします。

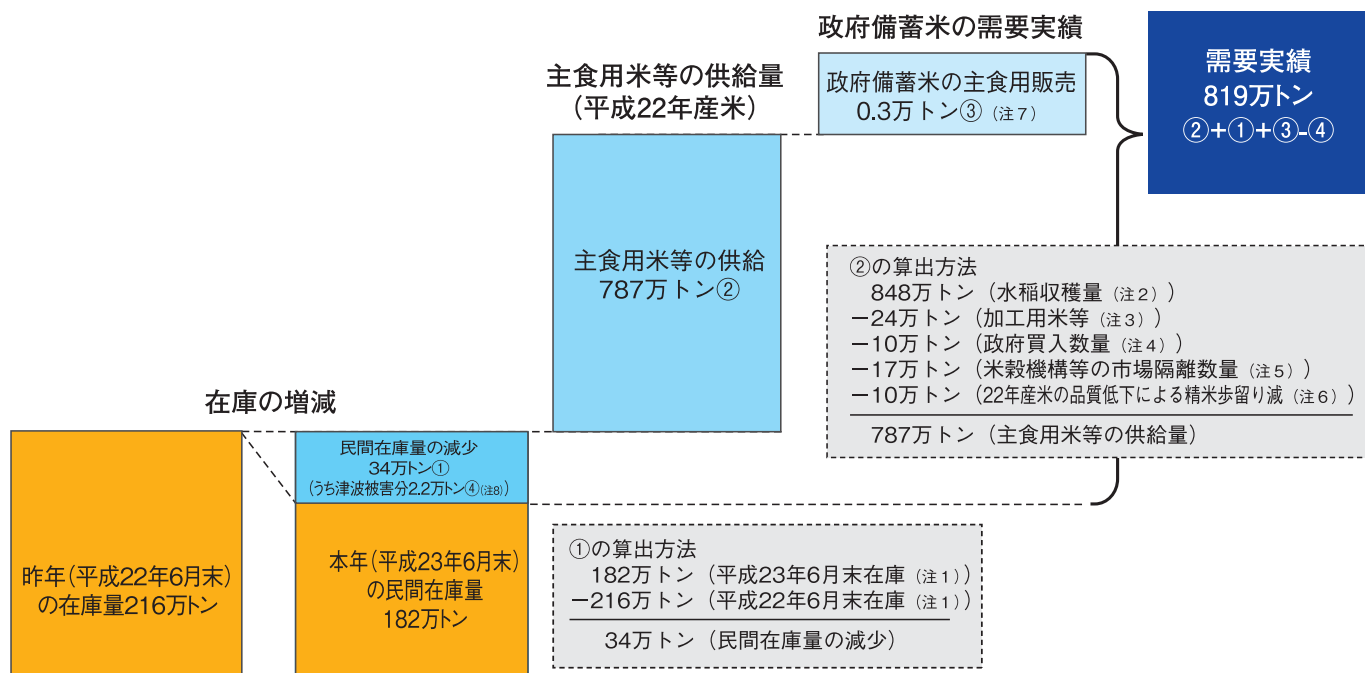
I 米穀の需給見通し

1. 平成22／23年の需要実績

平成22／23年(22年7月から23年6月までの1年間)の需要実績(速報値)は図表1のとおり819万トンとなります。

なお、平成22／23年の需要実績については、平成23年11月策定の「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」(以下「基本指針」という。)における確定値報告に向け、精査することとしています。

図表1 平成22／23年の需要実績(速報値)



注1:6月末在庫は、玄米の取扱数量が年間500トン以上の届出事業者の在庫に10a以上の作付生産者の在庫推計値を加えたものである。

注2:水稲収穫量は、22年産米の水稲収穫量(「作物統計」農林水産省大臣官房統計部)である。

注3:加工用米等は、米穀の需給調整実施要領第3において需給調整の取組として取り扱う米穀等として定める加工用米及び新規需要米(飼料用及びバイオエタノール用を除く。)であって主食用米等へ供給されることが確認された米穀である。

注4:政府買入数量は、22年産米の政府買入数量である。

注5:米穀機構等の市場隔離数量は、集荷円滑化対策の過剰米対策基金を活用して、主食用米を飼料用等に処理することが予定されている数量である。

注6:22年産米の品質低下による精米歩留り減は、販売業者からの聞き取りを踏まえ、例年に比べ▲1.5ポイントとして推計した数量である。

注7:政府備蓄米の主食用販売は、22年7月から23年6月までの政府備蓄米の主食用への販売数量である。

注8:地震・津波被害は、全国出荷団体及び全国米穀販売事業共済協同組合からの聞き取りである。

注9:ラウンドの関係で計が一致しない場合がある。

2. 全国の平成23／24年の需要見通し及び需給見通し

平成23／24年(23年7月から24年6月までの1年間)の全国の需要見通しは、平成16年7月策定の基本指針において最近の米の消費量を踏まえて採用した手法により、平成8／9年(8年7月から9年6月までの1年間)以降から直近の平成22／23年までの全国の需要実績を用いて、トレンド(回帰式)で算出すると、805万となります。

また、これらの数値を踏まえた平成23／24年の需給見通しは、図表2のとおりとなります。

図表2 平成23／24年の主食用米等の需給見通し

(単位:万トン)

		主食用米等
平成23年6月末民間在庫量	A	182
平成23年産米生産数量目標	B	795
原発事故による作付制限	C	▲5
地震・津波被害による生産量減少	D	▲9
県内市町村間調整・県間調整による生産量増加	E	12
平成23年産主食用米等生産量	F=B+C+D+E	793
平成23／24年主食用米等供給量計	G=A+F	975
平成23／24年主食用米等需要量	H	805
平成24年6月末民間在庫量	I=G-H	170

Ⅱ 米の1世帯当たりの購入数量

米の1世帯当たりの購入数量(2人以上の世帯)は、図表3のとおり平成22年度では、2月～3月、5月～6月、12月を除き、前年同時期を下回り、平成23年度も東日本大震災のあった3月を除いて、前年同時期を下回っています。

図表3 1世帯当たりの米の購入数量(2人以上の世帯)

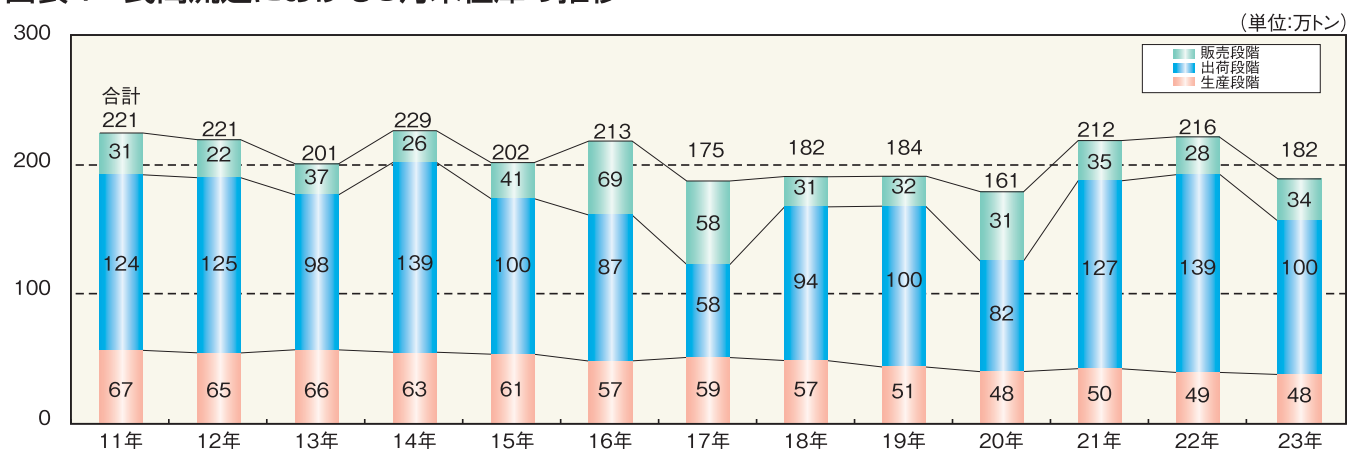
年	月	購入数量(kg)	対前年同月比(%)
2010 (平成22)	1	4.92	98.0
	2	5.60	100.2
	3	6.42	101.3
	4	6.40	96.7
	5	6.33	101.8
	6	6.43	106.1
	7	6.14	95.8
	8	6.24	94.4
	9	8.93	91.6
	10	10.31	91.7
	11	7.92	98.5
	12	7.50	104.9
2011 (平成23)	1	4.79	97.4
	2	5.11	91.3
	3	7.47	116.4
	4	5.95	93.0
	5	5.76	91.0
	6	5.84	90.8

資料:総務省「家計調査」、6月分(平成23年7月29日公表)データを追記した。

Ⅲ 民間流通における6月末在庫

米穀の民間流通における6月末在庫は、図表4のとおり平成16年6月末までは、200万トンを上回っていましたが、平成17年6月末以降は平成21年及び平成22年6月末を除いて、161万トン～184万トンの範囲で推移しています。

図表4 民間流通における6月末在庫の推移



資料:農林水産省調べ

注:1)うるち玄米及びもち玄米の値である。

2)各年の民間在庫量において、

①平成16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者(販売・出荷段階)の数量である。

②平成15年については、

・販売段階の在庫量は、旧登録卸売業者の年間玄米取扱数量500トン以上、旧登録小売業者の1,000トン以上の業者の数量である。

・出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。

③平成14年以前については推計値であり、

・販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量(推計)を加えた数量である。

・出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量(推計)を加えた数量である。

なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」

(平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」)を基に算出した在庫量から精米在庫量(推計)を控除した玄米在庫量である。

3)ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

Ⅳ 国の備蓄米の運営

国は、米穀の生産量の減少によりその供給が不足する事態に備え、必要な数量の米穀を在庫として保有することとし、その備蓄運営手法については、平成23年度から棚上備蓄方式に移行しました。

棚上備蓄方式による備蓄運営の基本的な考え方は、

①適正備蓄水準は100万トン程度(6月末)、②国内産米を一定期間(5年間程度)備蓄、③備蓄米の買入れは、出来秋の市場価格に影響を与えないよう事前契約によることを基本に、公平性・透明性を確保する観点から一般競争入札により実施(毎年20万トン)、④備蓄米は、備蓄後に飼料用等の非主食用として販売(20万トン)、⑤大凶作や連続する不作などにより、民間在庫が著しく低下するなどの米が不足する時における備蓄米の放出については、食料・農業・農村政策審議会食糧部会において、放出の必要性に関し、作柄、在庫量、市場の状況、消費動向、価格及び物価動向について総合的な観点から議論を行い、これを踏まえて、農林水産大臣が備蓄米の放出を決定とし、これを踏まえた平成23/24年の備蓄運営は図表5のとおりです。

図表5 平成23/24年の備蓄運営(単位:万トン)

(単位:万トン)

		主食用米等
平成23年6月末備蓄量	A	88
平成23年産米買入数量	B	20*
平成23/24年非主食用販売量	C	20*
平成24年6月末備蓄量	$F=A+B-C$	88

注)※は仮置きした数量である。

V 米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移

民間流通における米の月別全銘柄平均相対取引価格(平成18年産～22年産)は、図表6のとおりです。

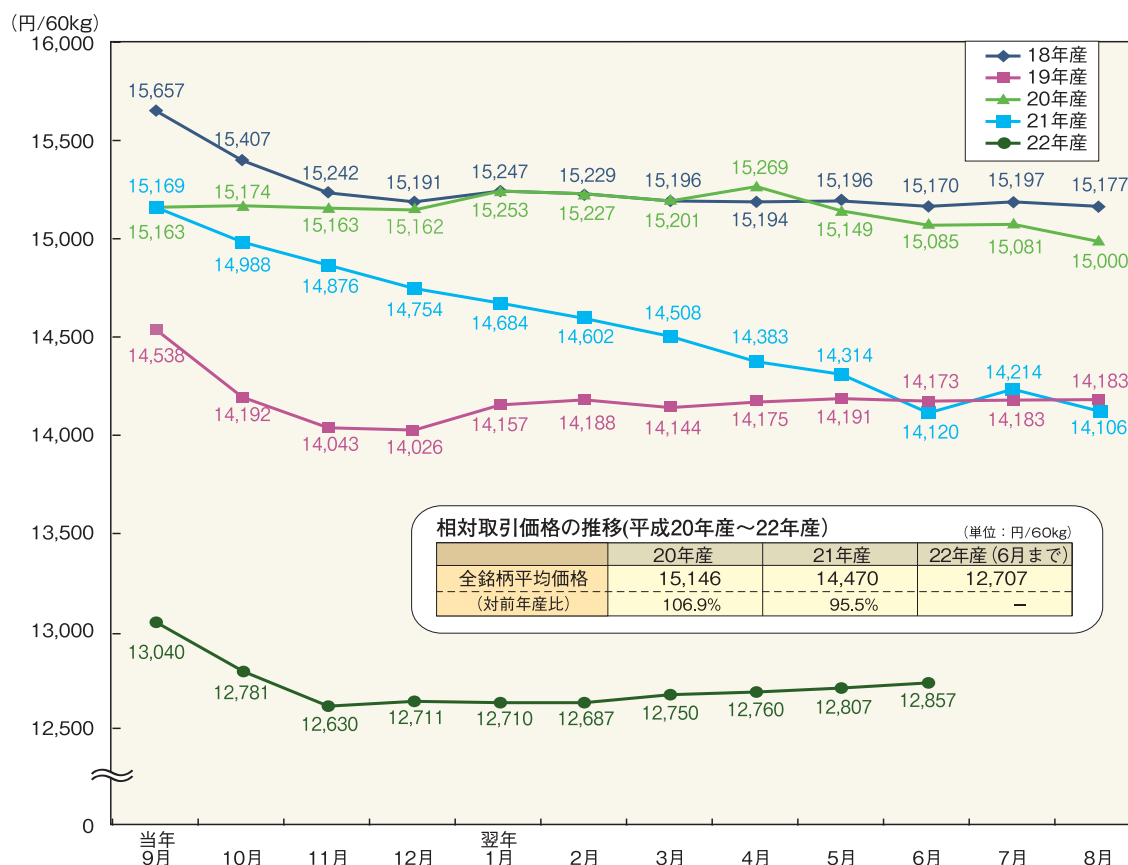
平成18年産は15,657円から15,170円の上下幅で推移しました。平成19年産は作況99でありながら、コメ価格センターの入札価格が多くの銘柄で前年産を大幅に下回る異常事態となったことから米緊急対策を実施した結果、価格は下げ止まりましたが、14,538円から14,026円の上下幅で推移しました。

平成20年産は作況102となり集荷円滑化対策の実施(36道府県96地域)と前年の米緊急対策により需給が引き締まり、15,269円から15,000円の上下幅まで回復しました。

平成21年産は当年9月では15,169円を確保したものの、当年10月に14,988円に下落すると、その後も需給状況を反映し平成22年8月では14,106円まで下落しました。

平成22年産は、平成21年産の大量の持越在庫の影響を受け作況指数が98であるにも拘らず、9月は13,040円、10月は12,781円、11月は12,630円と前年同時期より2,000円程度下がったことから、集荷円滑化対策過剰米対策基金を活用した「販売環境整備事業」の実施(平成22年産米171千トンの買入れ)により、下げ止まりとなり3月以降は12,750円～12,857円で推移しています。

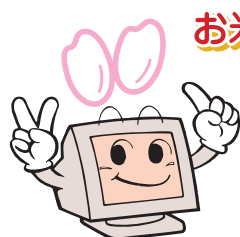
図表6 米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移(平成18年産～22年産)



資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1:価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

2:産地銘柄ごとの価格を前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。



お米・ごはん情報満載のホームページ 米ネット

米穀機構のホームページ「米ネット」では、お米の価格・消費・生産などの統計データをはじめ、生産者及び販売業者の皆様向けにお米に関する最新の情報を常時提供しています。

また、生産者及び販売業者の皆様からの「米ネッ

ト」に関するご提案・ご要望をお待ちしております。「お米生産・流通・価格ゾーン」、「生産者のコーナー」等の中の「このページについての意見・感想を投稿する」の投稿フォームからEメールをご利用ください。皆様のアクセスをお待ちしています。